

第2回安曇野市消防委員会

- 1 審議会名 安曇野市消防委員会
- 2 日 時 令和6年7月30日 午後6時30分から午後7時30分まで
- 3 会 場 安曇野市役所 4階大会議室
- 4 出席者 百瀬委員長、井口職務代理、二木委員、藤原委員、草深委員、宮島委員、
小平委員、大野田委員、小澤委員、平林委員(消防署長)高橋委員(団長)
危機管理課 消防防災係 課長補佐兼係長 布山 担当 今井、高山
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴人 0人 記者 0人
- 7 会議概要作成年月日 令和6年8月9日

協 議 事 項 等

【会議の概要】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 会議事項
- (1)検討課題
- ア 機能別消防団員の導入について
- イ 消防委員会の委員定数と女性委員について
- (2)その他
- 第66回長野県消防ポンプ操法大会・第33回長野県消防ラッパ操法大会結果報告
- 4 閉 会

【会議事項】 <検討課題>

ア 機能別消防団員の導入について

委員1: 過去にも機能別消防団員を検討する機会があったが、時期尚早という結論であった。しかし、新入団員が少なくなった現況に、そろそろ機能別の導入時期ではないかと感じる。現役消防団員の活動とは別で、例えば、大規模災害のときに地区でOBが活躍できる場を今後考えたほうがよい。

委員2: 消防団員数の減少を感じる。大規模災害や水害や山火事など人手が必要な場面で、消防団OBを活用していく方向ではないか。ただ現役団員とOBの明確な区別は必要である。

委員3: 明科地域の昼間の団員不足を感じている。以前に火災があったときに地域の消防団OBなど一般の人が緑色のヘルメットを被って、交通整理をしていた。地域の人たちの理解と協力を得て、地域の防災力を上げていくことが大切だと思った。

機能別消防団員の活動内容は、検討をしていく必要がある。

委員長： 明科担当委員の2名は、明科地域は一般の人にも協力を求めていくということによろしいか。

該当委員： 異議なし

委員4： 自分が現役の頃と比べると消防団員の減少に驚いている。機能別消防団員導入は人員不足からもやむを得ないと思う。

委員5： 各地区の自衛消防隊などの団体と協力すれば、機能別消防団員が成り立つのではないか。

委員長： 堀金地区には、自衛消防隊というものがあるということか。

委員5： 詳細は不明である。地区によって差があるかもしれない。

委員6： 機能別消防団員制度の導入には賛成である。活動内容を決めるには、先進自治体の運用を参考にすべきである。

委員7： 機能別消防団員制度導入には賛成である。ただ早急に導入するのではなく、活動内容や募集する人員、福利厚生も含め、きちんとした検討が必要かと思う。

委員(署長)： 機能別消防団員としてOBの登用に関する話題が続くが、別の観点から。
女性消防隊には広報活動と救急講習会での活動を現在実施しているため、機能別の活動を女性部の活動とすれば機能別として動くのではないかと思う。
また、有事の際に重機を借りることができる地元業者との連携ができるルートがあると、大変心強く、消防署としても助かる。

委員(団長)： 現在の消防団では火災出動の際は、連絡ツールが発達したことで隣接ブロックから応援出動するといった、団全体の連携がとれるようになってきている。そのため、火災出動に関しては、団員間で今まで以上に連携を密にとるつもりである。
火災については先の発言のとおりで、機能別団員の主な活動内容として希望するのは、水防や人捜し、広報活動などの人手が足りない部分である。
また、喇叭隊の活動についても、機能別の活動として見直す時期になっている。

委員長： (最後に意見のある委員へ、発言するよう促す)

委員1： 機能別消防団員の活動内容としてOBが火災現場で後方支援を行うことはせず、主

に大規模災害時に活動する内容などを、今後決めていけたらよいと思う。

委員(署長)から発言のあった、民間業者の重機提供については、消防団協力事業所として登録する業者はいるが、実際の重機提供には費用面の不安が残る。

今後、大規模災害の際に、消防団が実際にどのように動けるのか、を考えながら進めていくことを提案する。

委員長： (今後のこの委員会での議論として、機能別消防団員は、どこに重点を置いて話を進めていけばよいか、発言を促す。)

委員5： 現役に近い委員の意見、団長や消防署長の意見を尊重しながら進めていけばどうか。

委員長： (機能別消防団員として、今後どのような人を集めればよいか。またどの組織として活動をしたらよいか、に対する発言を促す)

委員3： 地域でも自主防災を行っているが、一般の人は集まりにくく、消防団OBが中心となると感じる。機能別消防団員として募集するOBの年齢制限は、ない見込みで話は進むのではないか。

委員5： 自主防災組織の中には防災士がいると思うが、大規模災害対策に関して、資格所有者に声をかけたらどうか。

委員長： 機能別消防団員の活動内容を考えるにあたり、火災に関しては、現役団員でうまく回っているため、まだOBは必要ないかという印象を受けた。
活動内容に関する意見はあるか。

委員6： 委員長と同意見となるが、自分が消防団OBとして火災現場での活動は難しいため、別の立場での活躍を期待する。また、地域のつながりが希薄なので、そこも含めて考えていくべきと思う。

委員3： 水防などをOBが行うのは、難しいと思う部分もある。難易度の高い活動内容にせず、祭りの警備や広報活動など、入団のハードルを下げたほうが人は集まりやすい。

委員(署長)： 事務局への質問だが、機能別消防団員に登録すると、活動手当は出るのか。また、機能別消防団員は訓練にも参加するのか。

事務局： 活動手当はあるものと考えている。金額については近隣自治体を参考に、今後検討

が必要となる。

機能別消防団員の活動内容によって訓練への参加有無は変わる。例えば、水防で使う土のうの作り方を身に着けるために、春に行う消防団の教育訓練への参加は必要となる、という考え方だ。それでいくと、火災出動がなければ器具の扱いまでは不要となるため、活動内容に合わせて訓練が必要かを考えていく。

委員(署長): 自主防災組織を機能別消防団として登録できるか。

事務局: 自主防災組織は別組織なので、そのまま機能別消防団としては活動できない。しかし、団員と活動を兼ねるといったような調整は可能である。

委員(団長): 機能別消防団をまず組織するかどうかを決めるところからのスタートだと思う。現役団員の要望は、この場で提示するので、今後も検討をしてほしい。

委員長: 今までの意見をまとめると、機能別消防団を組織は必要ということで進める。女性委員の選出については、次回以降に送る。

(2)その他

第66回長野県消防ポンプ操法大会・第33回長野県消防ラッパ操法大会結果報告

委員(団長): 大会結果は3チームとも良い成績を収めることができた。来年度に向けて一層努力するところだが、最近ではポンプ操法の訓練に出ない分団も増えているため、代替訓練も必要かと思っている。

次回の日程は、10月8日(火) 18時30分